こどもみどりプロジェクト

湯木 喜久，柴崎 浩平

キーワード：小学校で農業，子ども，野菜を育てる経験

1. 団体概要

本プロジェクトでは,姫路市立白鷺小中学校にある,使用されて以内花壇を借りて農作業を行っている。同小学校の生徒や地域の住民と接しながら，種まきから収穫までを子どもたちと一緒に行い,雑草抜きや間引きなど地道な作業をしつつも,野菜を育てる大変さを学び,そして収穫時の達成感を感じることを目的としている。

本プロジェクトの発端は，1 年時の一般教養の授業がきっかけであり,継続的に活動を続けていきたいという思いから,本年度からプロジェクト化した。メンバー数は 10 名であり（いずれも 2 年生），週 1 回の頻度で小中学校を訪れている。

2. 2024 年度の活動について

毎週木曜日の 15 時頃から，1 時間半ほどの活動を行っている。活動の流れとしては，まずにその日の作業内容を説明し,子供たちと一緒に種まきや苗植え,雑草抜き,間引きといった農作業に取り組む。野菜を育てる過程で季節や天候に応じた注意点を学ぶ場面も多く,特に夏場には水やりの重要性を強調した。活動中は，地域の農家や住民からの指導を受けながら，実践的な農作業の知識を学んでいる。

表 1 は，2024 年度の活動スケジュールとして，植えた野菜や収穫した野菜の一覧を示している。春から初夏にかけてはさつまいもやトマト,夏には枝豆，秋から冬にかけて玉ねぎやそら豆，ジャガイモといった季節ごとの野菜を植えてきた。子供たちは四季折々の農作物の栽培方法を学び,作物の違いや季節に応じた農作業の工夫も体験している。

さらに,収穫した野菜は子供たちに持ち帰ってもらい，家庭で食べてもらうことによって，食育という観点からも学びを深めた。また，配り切れなかった野菜については,この活動に参加してもらっている地域の方が運営している子ども食堂に寄付する取り組みも行っており,地域貢献の一環として社会的なつながりを意識させる機会にもなっている。

表 1　2024 年度の活動スケジュール

4 月	トマトの苗植え
5 月	ジャガイモ，玉ねぎの収穫
6 月	トマトの収穫，さつまいもの種植え
7 月	トマトの収穫，枝豆の苗植え
8 月	新しい畝作り
10 月	枝豆の収穫、大根の苗植え
11 月	さつまいもの収穫，玉ねぎの苗植え
12 月	そら豆の苗植え
1 月	大根の収穫，じゃがいも(種いも)植え

(出所)執筆者作成

写真 1 大根の収穫

写真 2 雑草抜き

3. 活動を通して学んだこと

2024 年度の「こどもみどりプロジェクト」を通じて，農業と自然環境について多くの学びを得た。普段は工学部で農業とは関係のない分野を学んでおり,最初は農作業に対する知識や経験が不足していると感じていた。しかし，このプロジェクトを通じて,自然と向き合いながら新たな視点を得ることができた。農業の現場に身を置くことで，計画通りにいかないことが多いことを実感し,柔軟に対応する大切さを学んだ。特に印象に残ったのは，失敗から学ぶ経験だ。この活動の際，大根は大半が枯れてしまい,ジャガイモは芽が出ず全滅したことがあった。

写真 3 集合写真

写真 4 畑の様子

これらの失敗を通じて，農業がいかに自然環境に依存するか，また予期しない事態に対してどのように適応するべきかを学んだ。一方で，トマトやキュウリが順調に育ち，収穫できたときには，子どもたちと共に大きな達成感を得ることができた。また，失敗と成功の両方を経験することで，農業の本質に触れることができとてもいい経験になった。

さらに，地域の農家や住民との協力を通じて，農業が一人で完結するものではなく，地域とのつながりや協力が非常に重要であることを学んだ。収穫した野菜を子ども食堂に寄付し，食育や地域貢献の意義を実感した。自分たちで育てた野菜を家庭に持ち帰り，食べることで，食べ物の大切さやその背後にある努力を子どもたちに伝えることができたと思う。この活動を通じて，様々な分野に関わる学びや地域とのつながりの重要性を深く理解し，異分野に積極的に関わることの価値を改めて感じた。

4. 今後の展望

本プロジェクトが抱える問題点として，今年度から本格的に始動したということもあり，後輩への引き継ぎが不安な点が挙げられる。メンバー全員が 2 回生であり，後輩にどのように引き継ぎ，プロジェクトを持続させていけるかが課題となっている。また，親や先生よりも年齢の近い大学生と遊ぶ経験を通じて，子どもたちに楽しんでもらいたいという思いから，農作業だけでなく，作業後に子どもたちと鬼ごっこやブランコ，靴飛ばしなどを行っている。が，大学生側が途中で体力的にバテてしまい，十分に遊びきれないことも課題の一つである。

この課題を踏まえ，今後の展望として，まずはプロジェクトメンバーの確保が挙げられる。来年度には 1 年生の新規メンバーを募集してプロジェクトの持続性を確保したい。

農作業に関しては，栽培する野菜の種類を増やし，季節ごとに異なる作物を育てることで，子どもたちにより幅広い農業体験を提供し，その過程で農業の大変さや喜びを学んでもらいたいと考えている。また，地域住民や農業の専門家を招いて，高学年の生徒たちに農業への関心を深める機会を作りたいとも考えている。その他，運動遊びだけではなく，クリスマス会やハロウィンなどの季節行事に合わせたイベントを開催することで，より多様な活動を取り入れ，子どもたちとの交流を深めていく予定である。

将来的には，このプロジェクトを他の学校や地域の子ども食堂にも広げ，姫路市全体で食育や農業教育の普及に貢献したいと考えている。また，収穫した野菜を子ども食堂で提供することで，子どもたちが「自分たちで育てた野菜を食べたい」という気持ちを持ち，子ども食堂に自然に足を運んでもらえるような活動を目指している。これにより，子ども食堂の認知度を高め，地域の支援拠点としての役割を強化できると考えている。

子ども食堂は，地域で子どもたちが食事を楽しむだけでなく，コミュニティの一員としての意識を育む場所でもある。プロジェクトを通じて，子どもたちに農業の楽しさを実感してもらうとともに，子ども食堂にも親しみを持ち，今後も継続的に参加してもらえるよう活動を続けていきたい。